



令和8年8月27日
8・9月号 No.493
発行責任者
校長 西村 学徳
所在地 福生市熊川 623

実りの秋、読書活動の推進に向けて ～学校と家庭で育む読書習慣～

校長 西村 学徳

本日より、いよいよ2学期のスタートです。学校に元気な子供たちの声と笑顔が戻り、大変嬉しく感じています。この夏休み、子供たちはご家庭や地域で充実した日々を過ごし、たくさんの貴重な経験を重ねたことと思います。

さて、1学期の終業式で、私は子供たちに「ぜひ、この夏休みに5冊から10冊の本を読んでみよう」と話をしました。夏休み直前、1年生が図書バックに入れた本を腕に抱え、嬉しそうに運んでいる姿はとても微笑ましいものでした。子供たちがこの夏、どんな本と出会い、心を動かされたのか、ぜひ話を聞いてみたいと思っています。



1年生対象の図書館の方によるお話し「ぶっくん」

これまでの各種調査同様に、4月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果からも、読書習慣と学力には深い相関関係があることが示されています。毎日読書をする子や「読書が好き」と答えた子は、そうでない子に比べて国語・算数ともに高い正答率を示す傾向にありました。しかし、読書の価値は学力向上だけではありません。本は自分の視野を広げ、豊かな心を育むために欠かせないものです。

私自身、子供の頃は体を動かして遊ぶことの方が好きで、胸を張って読書家だったとは言えません。それでも、当時流行した映画を見たことから学校図書館にあった宗田理さんの「ぼくらの」シリーズの本を手取るようになり、夢中になってページをめくった記憶が残っています。きっかけさえあれば、誰しも本の世界に引き込まれる体験ができると思います。

近年、本校では、年度末の保護者・児童の学校評価アンケートで、読書に関する項目が他の項目と比べ低い数値となる傾向がありました。そこで、「読書活動の充実」を学校経営の重点課題の一つに掲げ、読書週間・旬間の設定や毎日の読書の宿題、学校図書館と電子図書館の積極的活用、PTAの皆様による「親子読書会」など、様々な取組を進めてまいりました。その成果は、子供たちの様子やアンケートの数値にも着実に表れてきています。昨年度好評だった「教員シャッフルによる読み聞かせ」も、9月の読書週間で実施する予定です。

また、この夏の教員研修では、著名な児童文学作家の方から「大人が心を込めて本を読んであげる時間を大切にしましょう。子供を尊い存在として、大人が本気で良い本を選び、手渡し続けていきましょう。」というお話を伺いました。私自身、我が家の3人の子供たちの本への興味がそれぞれ異なるのを見るにつけ、幼い頃に本と触れ合わせる機会をもっと作ればよかったと、親として反省することもあります。だからこそ、学校と家庭が連携し、大人が意識的に「本と出会うきっかけ」を作っていくことが重要なのだと実感しています。

2学期も引き続き、読書活動を推進してまいります。また、今学期からは新たに図書ボランティアの方々にもご協力いただき、図書室の更なる環境整備も進めてまいります。

子供たちにとって実りの多い日々となるよう、教職員一同、力を尽くしてまいりますので、今学期も本校の教育活動へのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。